

1070. ベクトル束ノ表現 = 閉スル =, 三ノ 注意

小笠原 謙次郎 (廣島大 理大)

談話 998 "ベクトル束ノ表現" = 閉スル =, 三ノ 注
意ヲ述ベタイ。

§1. 單位ヲモツベクトル束ノ表現

L ヲベクトル束トスル。部分集合 A ノスベテノ要素 = 直
交スル要素ノ全体ヲ A' デ表ス。即チ $A' = \{u; |u| \wedge |a| = 0, a \in A\}$ 。

$A \rightarrow A''$ ハ Birkhoffノ意味ノ閉苞演算デアアル。之レニ
閉シテ閉キタ集合即チ $A = A''$ ナル A ヲ正規イデアアルトイフ。
任意ノ $A = \text{閉シ} A''$ ハ A ヲ含ム最小ノ正規イデアアル, 即チ A ノ
生成スル正規イデアアルデアアル。特ニ α ノ生成スル正規イデア
アルヲ $\alpha(\alpha)$ デ表シ主イデアアルト呼ブ。 L ノ正規イデアアルノ全
体ヲ N デ表シ正規イデアアルハ α, β 等デ表ス。 N ハ完全束
デア $\alpha \rightarrow \alpha'$ ハ双對自己同型對應デアアル。

定理1. N ハ完全ブール代數デアアル。

(証) Birkhoff, *Lattice Theory*, 定理 6.11 =
ヨリ α' ガ α ノ唯一ツノ補要素ナルコトヲ示セバヨイ。
 $\alpha \wedge \beta = 0, \alpha \vee \beta = L$ トスレバ $\alpha \rightarrow \alpha'$ ノ双對自己
同型カラ $\alpha \wedge \beta = 0, \alpha' \wedge \beta' = 0$ 。ユレカラ $\beta \leq \alpha', \beta' \leq \alpha''$
後者カラ $\beta \geq \alpha'$ トナリ $\alpha' = \beta$ トナル。 α' ハ α ノ補要素デ
アルカラ, ヲレデ証明ガ完結シタ。

(注意) 談話 998 デハ主イデヤル、作ル配分束 P 考ヘ
 夕、 P ノ表現空間 Ω_P ハヒユムバクトトハ一般ニ $1 \in \Omega$ 、
 N ノ表現空間 Ω フトレバユノ難点ガ除カレル。 L ノ正要素
 ノ全体ヲ L_+ トスルトキ L_+ 自身ハ配分束デアール。 Wall-
 man 流ノ L_+ 表現 (a -set フ basic open set = ス
 ル) フ考ヘルトキ disjunction property カラ $\Omega(a)$
 $= \Omega(b)$ ノトキ = 限リ a ト b ガ同ジ basic open set
 デ表サレル。 即チ Ω_P ハ L_+ ノ準同型表現 (Wallman/
 表現 = ヨツテ) = ナル。

尚定理 1 ハソノ証明カラ L ガ Cliffordノ意味デ半
 順序ツケラレタ群 (可換デナクトモヨイ) ノトキ L_+
 ノ中デ正規イデアールヲ考ヘルト成立ツ。

次ニ L ガ単位 e ヲ有スルトキソノ表現ヲ考ヘテ見ル。

Ω ヲ N ノ表現ガール空間トスル、即チ Ω ノ点 β ハ N
 ノ極大双対イデアールデアツテ $\Omega \in \beta$ ナル β ノ全体ヲ Ω^* デ
 表ストキ Ω^* ハ Ω ニ對應スル basic open set デアール。 談
 話 998ノ方法デ α ニ對應スル連続函数ヲ $f_\alpha(\beta)$ デ表ス。

即チ有理数 λ = 對シ $\alpha_\lambda^{(\infty)} = \Omega((1-\lambda)e)$ ト定メ、 β = 對シ
 $\alpha_\lambda^{(\infty)} \in \beta$ ナル λ ガ存在シトキ $f_\alpha(\beta) = +\infty$ 、 \forall ノ他ノト
 キハ $f_\alpha(\beta) = \text{g.l.b.}(\lambda; \alpha_\lambda^{(\infty)} \in \beta)$ ト定メルノデアール。

$f_\alpha(\beta)$ = 關スル性質ハ談話 998ヲ参照サレタイ。 $f_\alpha(\beta)$
 ノ全体ヲ L トスル。 $f_\alpha(\beta) \equiv 0$ トスル β ノ $\pi = \text{對シ } \pi|x|$
 $\equiv e$ トハ同義デアール。 σ ノ π ノ全体ヲ N_0 トスルノトキ N_0
 ハ正規部分空間デアール。

定理2. L が単位 e をベクトル束で、任意の正要素 $x = \sum_{\nu} x_{\nu} = \sum_{\nu} (x \wedge n e)$ が成立つてスル。コノトキ $L - N_0$ はアルキメデスの的 $L \wedge L - N_0 =$ 同型なベクトル束である。また $L =$ 属スル函数へ非稠密集合ヲ除イテ有限値ヲトル。

(証) $x > 0$ のトキ $F = \{ p \mid f_x(p) = +\infty \}$ が非稠密ナルコトヲ示セバ他ハ容易ニ判ル。 F が非稠密デナイトスレバ $F \supset \mathcal{O}(a)^* + \nu a > 0$ が存在スル。 $p \in \mathcal{O}(a)^*$ のトキ $f_x(p) = +\infty$ カラ定義ニヨリ $\mathcal{O}(a \wedge (x - n e)_-) = \mathcal{O}(a) \wedge \mathcal{O}((x - n e)_-) = 0$ 従テ $a \wedge (x - n e)_- = 0$ 。コレカラ $(x + a) \wedge n e \leq x$ 。故ニ假定カラ $x + a \leq x$ 即チ $a \leq 0$ ナリ矛盾が起ル。

本定理カラ明カナル様ニ $e =$ 関スル無限小ノ存在シナイ即チ $N_0 = 0$ ナル L がアルキメデスの的ナルタメノ條件ハ $x > 0 = \sum_{\nu} x_{\nu} = \sum_{\nu} (x \wedge n e)$ が成立ツコトである。一般ノトキ $L - N_0$ ハ単位 e ノ剰餘類ニ関シ無限小ヲ含マナイカラ $L - N_0$ がアルキメデスの的ナルタメノ條件がスグ得ラレル。

(注意) L が可換群束ノトキ有理係数ノベクトル束ニ拡大サレルカラ表現論及ビ上述ノ諸定理ガコレニ對シテモ成立ツ。

§2. C 空間ノ切断ニヨル完全化。

$[0, 1]$ 上ノ有界連続函数ノ全体 C ノ切断ニヨル完全化ヲ $[0, 1]$ 上ノ函数ヲ表現スルニ如何ナルモ、ニナルカ。コレハ第一種集合ヲ除外シテ一致スルニツノ Baire ノ性質ヲモ

ツ有界十函数ヲ恒等視スルトキ, カール函数ノ全体ガ C ,
 切断 = ヨル完全化 = ナル, コレヲ稍々一般ニシテ論ズ
 ル。

R ヲ完全正則空間トスル, C ヲ R 上ノ有界連続函数ノ全
 体トスル。

補題 I. C ノ正規イデアルノ完全ブール代数ト R ノ正則
 開集合ノブール代数ハ束同型デアアル。

(証) 正規イデアル $\mathcal{O} = \sum_{f \in \mathcal{O}} (P; |f(P)| > 0)$ +
 ル開集合ヲ對應サセル, コノ開集合ヲ $G(\mathcal{O})$ デ表ス。 $g \in \mathcal{O}$
 = 對シ明カ = $G(\mathcal{O}) (P; |g(P)| > 0) = 0$. コレカラ $G(\mathcal{O})$
 ハ正則開集合デアツテ, $(P; |f(P)| > 0) \subset G(\mathcal{O})$ ナリ,
 全体ガ \mathcal{O} ナルコトが判ル, 逆 = 正則開集合 = ハカニ方法
 デコレ = 對應スル正規イデアルノ存在が判ル, コレヲ証明ガ
 完結シタコト = ナル。

コノ補題 = ヨリ正則開集合ノブール代数ノ表現空間ハ正
 規イデアルノブール代数 N ノ表現ブール空間 = ナル。

更ニ R ハ如何ナル開集合モ第一種集合デアイトスル。

B ヲ R 上ノ Baire ノ性質ヲモツ有界函数ノ全体トシ,
 第一種集合ノ上ヲ除イテ一致スル函数ハ對等トイヒ, 之レヲ
 恒等視シテ B ヲベクトル束 = スル, C ノ切断 = ヨル完全化ヲ
 \bar{C} トスルトキ \bar{C} ハ N ノ表現空間 \mathcal{O} ノ有界連続函数ノ全体
 ノベクトル束ヲ表現サレルカラ \bar{C} ヲカール連続函数ノ全
 体トシテヨイ, $f \in B$ トスル, 任意ノ有理数 λ = 對シ $(P;$
 $f(P) < \lambda)$ ト第一種集合ヲ法トシテ一致スル正則開集合ヲ

G_λ とスレバ $\lambda < \mu$ ノトキ $G_\lambda \subset G_\mu$. 充分小ナル $\lambda = \text{對}$
 λ , $G_\lambda = 0$. 充分大ナル $\lambda = \text{對}$ $G_\lambda = L$.

$\sum_{\lambda < \mu} G_\lambda$ と G_μ ハ第一種集合ヲ除イテ一致スル. $G_\lambda =$

對應スル N ノ要素ヲ α_λ トスレバ $\lambda < \mu$ ノトキ $\alpha_\lambda \leq \alpha_\mu$.

$\forall_{\lambda < \mu} \alpha_\lambda = \alpha_\mu$. 充分小ナル $\lambda = \text{對}$ $\alpha_\lambda = 0$. 充分大ナル $\lambda =$

對 $\alpha_\lambda = C$. コレカラ $\int_L f(x) dx = \int f(x) dx$ と
 連續函数ヲ作レバ, 明カニ $f \in C$, $f \in C$ ノ對應

スル. $f + g$, $\alpha f = \beta$ ツイテモ証明スルコトガ出來ル. コノ
 對應ハ / 對 / デアツテ C ノ要素ヲ不変ニスル. 故ニ $B \cap C$ ノ
 切断ニヨル完全化デアアル.

マテ Ω ノ非稠密集合ヲ除イテ有限値ヲトル連續函数
 全体ノベクトル束 L_Ω ハ第一種集合上ヲ除イテ有限値ヲト
 ル Baire ノ性質ヲモツ函数全体ノベクトル束ト同型デアアル
 コト (對等ノ函数ハ恒等視スル) ハ上ノ証明法カラ判ル.
 Baire ノ性質ヲモツ函数ノ代リニ B -可測トシテモヨイ.
 (Kuratowski, 192 頁参照)

序ニ次ノ注意ヲ附加スル. C ヲ吉田氏 (或ハ Stone) ノ
 方法ヲビコンパクト空間 Ω 上ノ有界連續函数全体ヲ表現
 スルトキ Ω ハ R ノコンパクト拡張デアアル (吉田氏, 學士
 院記事 17 (1941) 121-124) ヲ, 拡張ハ R ノ全閉集合ノ作
 ル配分束カラ Wallman 式ニ得ラレルコトハ A.D. Alexand-
 roff ガ Recueil Math. デ示シテキルガ吉田氏ノ方法
 ト同類シテ次ノ様ニシテモ説明ガツク.

C, 任意, 極大正規部分空間 \mathcal{M} = 閉シ全開集合
 $(p; |f(p)| \leq \frac{1}{n}) f \in \mathcal{M}$ / 全体ヲ $\{F\}$ トスルトキ $\{F\}$ ハ
 有界相交性ヲモツ. $\{F\}$ ヲ含ム有限相交性ヲモツ全開集合
 / 極大集合ハ唯一ツシカ存在シトイコトが証明サレル. 逆
 \Rightarrow 全開集合 / 有限相交性ヲモツ極大集合 \Rightarrow 極大正規部分空
 間ハ唯一ツ對應スル. コレカラ Wallman 式 / ボコムパク
 ト擴張ハ \mathcal{M} ヲ点ト見ナス吉田氏ノ考ヘ方ニナル.

§3. ベクトル束ノ實函数族 (無限大性ヲトラナイ)
 ニヨル表現.

今 A ヲ完全ベクトル束, $\mathcal{O}(A)$ ヲ \mathcal{O} ノ表現アール空間,
 $\alpha \in A =$ 對應スル基本開集合 (basic open set) ヲ $\mathcal{E}(\alpha)$
 ヲ表ス. $\mathcal{O}(A)$ 上, 非稠密集合ヲ除イテ有限値ヲトレ連続函
 数全体ノベクトル束ヲ $\mathcal{L}_{\mathcal{O}(A)}$, 有界連続函数全体ノベクト
 ル束ヲ $\mathcal{L}_{\infty \mathcal{O}(A)}$ トスル.

補題1. ⁽¹⁾ $\mathcal{L}_{\mathcal{O}(A)}$ ノ實線空間ハ / ベクトル束トシテノ準
 同型對應 (群束トシテモ同義) ハ trivial + ∞ / (恒等的
 $= 0 =$ 對應サセル ∞ /) 以外ニ存在シナイタメノ條件ハ次ノ
 何レカヲ満足スルコトデアル.

(1°) 任意ノ $p_0 \in \mathcal{O}(A) =$ 對シ $f(p_0) = +\infty + \forall f \in \mathcal{L}_{\mathcal{O}(A)}$
 が存在スル.

(2°) A ノ任意ノ極大双對イデアルハ下端が $0 = +\infty$ 可
 附一部分集合ヲモツ.

(証) (1°) $p_0 =$ 對シ $f(p_0) = +\infty + \forall f \in \mathcal{L}_{\mathcal{O}(A)}$ が

存在シタイトスレバ $f \rightarrow f(p_0)$ ハ *trivial* ナイ準同型對應ニナル。

故ニ $f(p_0) = +\infty$ ナル $f \in \mathcal{L}_{\mathcal{B}}(A)$ ナ存在シタイトスレバ
 ナラヌ。逆ニカ、ル f ナ存在スレトスル。 $\xi(f)$ ナ *trivial*
 ナイ準同型對應ヲ與ヘルモノトスレバ $\xi(U)$ ナ 0 ナイ場
 合ハ $\xi(U) = 1$ トシテヨイ。 $\xi(f)$ ハ $\mathcal{L}_{\mathcal{B}}(A)$ ノ準同型對應ヲ
 與ヘルカラ $p_0 \in \mathcal{B}(A)$ ナ存在シテスベテ $g \in \mathcal{L}_{\mathcal{B}}(A)$ = 對
 シ $\xi(g) = g(p_0)$ 。 $f(p_0) = +\infty$ ナル $f \in \mathcal{L}_{\mathcal{B}}(A)$ ナ考ヘル。
 $f \geq 0$ トシテヨイ。 $g_n = f \wedge n$ トスレバ $g_n(p_0) = n$ 。コ
 レカラ $\xi(f) \geq \xi(g_n) = n$ トナリ $\xi(f) = +\infty$ ナ成立シ
 コレハ矛盾ナラズ。 $\xi(1) = 0$ トキ $\xi(g) = 1$ ナル

$\varphi \in \mathcal{L}_{\mathcal{B}}(A)$ ナトル。 $\varphi \geq 0$ トシテヨイ。 $(1 + \varphi(x))f(x) \rightarrow$
 $f(x)$ ハ $\mathcal{L}_{\mathcal{B}}(A)$ ノ自己同型對應ナラズカラ $\xi((1 + \varphi)f)$ ナ
 ナ考ヘルト / カ / = 對應スルカラ前ノ場合ニ帰結ナレ矛盾ナ
 起ル。

(1°) \rightarrow (2°) ノ証。 $f(p_0) = +\infty$ ナル $f \in \mathcal{L}_{\mathcal{B}}(A)$ ナトル。
 $f \geq 0$ トシテヨイ。 $(p; f(p) > n)$ ト對等ナ (第一種集
 合ヲ法トシテ一致スルコトノ意) 基本開集合ヲ $\mathcal{E}(a_n)$ トス
 ルトキ $\mathcal{E}(a_n) \subset (p; f(p) \geq n)$ ナラズカラ $\bigcap_n \mathcal{E}(a_n)$ ハ非
 稠密。故ニ $\bigwedge a_n = 0$ 。 p_0 ハ A ノ極大双對イデアナルカラ
 ナ $a_n \in p_0$ トナル。

(2°) \rightarrow (1°) ノ証。 p_0 ナ $\mathcal{B}(A)$ ノ任意ノ点トスル。 p_0 ハ
 A ノ極大双對イデアナルカラ $\bigwedge_n a_n = 0$ ナ $\{a_n\} \subset p_0$ 。

前頁脚註 (1) 中山氏談話 1012 ナヲ考ヘルナ。

がアール。コノトキ $\Pi E(a_n)$ ハ非稠密トナル。 $a_n > a_{n+1}$

トシテヨイ、 $f(\beta)$ ヲ

$$\beta \in \Omega(A) - E(a_1) \text{ ノトキ } 0$$

$$\beta \in E(a_n) - E(a_{n+1}) \text{ ノトキ } -n$$

$$\beta \in \Pi E(a_n) \text{ ノトキ } +\infty$$

トスル。 $f \in \mathcal{L}\Omega(A)$ トナル (1°) ガ成立ツ。 (証明)

Aニ於テ次ノ條件ヲ考ヘル。

(3°) Aノ任意ノ独立ト部分集合ハ可附番デアール。(独立トハ任意ノニ要素ガ互ニ直交スルコトノ意)

(4°) Aノ任意ノ増加超限列 $a_1 < a_2 < \dots < a_\omega < a_{\omega+1} < \dots$ ハ可附番デアール。

(5°) (4°)ノ双對命題

(6°) Aノ任意ノ部分集合ニ對シテハコレト上端ヲ同ジクスルソノ可附番部分集合ヲモツ。

(7°) (6°)ノ双對命題

(8°) Aハ可分デアール、即チAノ可附番部分集合 $\{U_n\}$ $U_n > 0$ ガ存在シ、任意ノAノ要素 $a > 0$ ハソノアール部分集合ノ上端ニナル。

補題2. (3°) — (7°)ハ互ニ同義デアール。

(証明) (3°) \rightarrow (5°)ノ同義ハ自明。(6°) (7°)ノ同義ニ自明。(5°) \rightarrow (7°)ノ証。EヲAノ任意ノ部分集合トスル。Eノ下端ヲ0トスル(コレヲ一般性ヲ失ハス)。Eノ任意ノ可附番部分集合ノ下端ノ集合ヲ E_1 トスル。 E_1 ガ0ヲ含マヌトキハ非可附番減少超限列ガ存在シ(5°)ニ反スル。(7°) \rightarrow (5°)ノ

証. 非可附番減小超限列がアトスル. スベテノ第一級,
 第二級ノ順序数 $\alpha =$ 對シ a_α が定義サレ $a_\alpha > a_{\alpha+1}$. $\{a_\alpha\}$
 ト下端ヲ同ジクスル可附番列ヲトルトアル $\alpha_0 =$ 對シ $a_{\alpha_0} =$
 $\wedge a_{\alpha+1}$ リ矛盾が起レ.

補題3. (8°)が成立ツトキ(3°)が成立ツ.

(証) 自明.

補題4. A がatomic elementヲモタナイデ且ツ(3°)
 — (7°)ノ何レカ一ツが成立ツトキ(2°)が成立ツ.

(証) 自明.

補題5. A がatomic elementヲモタナイデ(8°)が
 成立ツトキ(2°)が成立ツ.

L ヲ單位 e ヲモツ完全ベクトル束トスル. L ノ正
 規イデメルノブール代数ヲ N , 表現ブール空間ヲ \mathfrak{B}
 トスル.

補題6. N が(3°) — (7°)ノ何レカヲ満足スルタメノ條
 件ハ次ノ何レカデアアル.

(i) L ノ上方有界部分集合ハコレト上端ヲ同ジクスル
 ノ可附番部分集合ヲ含ム.

(ii) (i)ノ双對命題.

(証) (ii) \rightarrow (7°) N ハ e ニ關スル特性要素ノ作ルブ
 ール代数ト束同型デアアルコトカラ.

(7°) \rightarrow (ii) 0 ヲ下端トスル L ノ部分集合 E ヲ考ヘル.
 $x \in E =$ 對シテ $0 \leq x \leq e$ トシテ一般性ヲ失ハナイ. 何者 e
 ノ代リニ單位ヲ適當ニトレバヨイカラ. $x \in E =$ 對シ

$\alpha((x - \frac{1}{n}e)_+)$ へ、 e の射影ヲ考へルトキ (7°) = ヨリ E
 ノ可附番部分集合 $\{x_{n,m}\}$, $m=1, 2, \dots$ が存在シ、之等
 = 對スルカニル射影下端が $0 < +\infty$. 故ニ $\bigwedge_m x_{n,m} \leq \frac{1}{n}e$
 従テ $\bigwedge_{n,m} x_{n,m} = 0$ トナリ (ii) が成立ス。(証終リ)

正則ベクトル束ハ常ニ (i), (ii) ヲ満足スル. *non-trivial*
 ナ準同型對應ヲ許サナイニノ例ヲ挙ゲルナラバ、

例 1. (中山氏 = ヨル例, 談話 1012) A トシテ $[0, 1]$ ノ
 正則開集合ノ完全ブール代数, 補題 5 = ヨリ *non-trivial*
 ナ準同型對應ヲ許サナイ $\mathcal{L}_{\Omega}(A)$ ハ對等ナ函数 (第一種集合
 上ヲ除イテ一致スル) ヲ恒等視シタ第一種集合上ヲ除イテ有
 限値ヲトル Baire ノ性質ヲモツ (B -可測トシテモヨイ)
 函数族ノベクトル束デアル。

例 2. A トシテ零測度集合ヲ法トシタ可測集合ノブール
 代数トスル. A ハ *atomic element* ヲ含マズ且ツ (3°)
 ヲ満足スル $\mathcal{L}_{\Omega}(A)$ トシテ對等ナ函数ヲ恒等視シタ零測度集
 合上ヲ除イテ有限値ヲトル可測函数全体ノベクトル束。

ベクトル束 $L =$ 於テ $a(n)$ ガ N ノ *atomic element* ノト
 キ x ヲ孤立要素ト呼ブ。

定理 1. L ガ K -空間ノトキ実数空間へノ *non-*
trivial ナ準同型對應が存在スルタメノ條件ハ L ノ孤立要
 素ヲ含ムコトデアル。

(証) 必要ナコト. $\xi(x)$ ヲ *non-trivial* ナ準同
 型對應ヲ與へルモノトスル. 適當ニ L ノ主イデアルヲ考へル
 コト = ヨリ, L ガ單位 e ヲモチ $\xi(e) = 1$ トシテ一様性ヲ失

∞ 。 $e \in \Omega$ 上の連続関数を表現スル。補題 1 の証明法から $f_0 \in \Omega$ が存在し $\xi(x) = f_x(f_0)$ / 有限トナル。 $e_\alpha \in f_0$ と e 同スル特性要素、全体ヲ $\{e_\alpha\}$ トスル。 f_0 が孤立点ヲナイトスレバ、 $\bigwedge e_\alpha = 0$ 。 K -空間ノ性質カラ $\{e_\alpha\}$ 、可附添部分集合 $\{e_n\}$ が存在シ $e_n \perp e_{n+1}$, $\|e_n\| \leq \frac{1}{2^n}$ $x = \sum e_n$ ト置クト $f_x(f_0) = +\infty$ トナリ矛盾が起ル。故ニ f_0 ノ孤立点。従ツテ f_0 ノ基本開集合ニナルカラ N 、atomic element e_0 が存在シ、任意ノ x 、 e_0 ノ射影ヲ λe_0 トスレバ $\xi(x) = \lambda$ トナル。逆ハ容易ニ判ル。(証終)

L ノ K -空間ノトキ $N_1 \neq N_2$, $N_2 =$ 直和分解シ N_1 ノ atomic + ブール代数, N_2 ノ atomic element / + ブール代数ニスル。 N_2 が空ノトキハ、 L ノ実函数ヲ同型ニ表現サレ、 N_2 が空ヲナイトキハコレが不可能ニナル。 N_1 が空ノトキハ実数空間ヘノ non-trivial + 準同型對應ハ存在シナシ。 N_2 が空ニナル條件ハ L が列空間 (可附添トハ限ラナシ) トナル條件ヲ束的ニハ任意ノ区間ガノルムヲコンパクトニコレコトナル。

尚定理 1 ノ Bochner 束ニ對シテモ成立スル。同様に証明ヲ繰返スニ過ギナシカラソノ証明ハ略スル。従テニ \mathbb{R}^n ノ空間ヲ除イテ我々ノ接スル函数空間ハ一般ニ実函数ヲ同型表現ガ不可能ニナル。